



2008年9月25日発行 通巻第103号
発行 佐賀県 西松浦郡 有田町 黒牟田 しん窯青花
電話 0955-43-2215 FAX 0955-43-2889
URL <http://shingama.com/shingama.html>
E-Mail Address seika@po.saganet.ne.jp

発行責任者 梶原茂弘

— 第百参号 —

(2008年秋号)

陶芸教室第10期開講

陶芸教室第10期が始まりました。今回は昼コース8名、夜コース7名の参加者になりました。毎週土曜日に9月から2月まで約半年間、職人さんをコーチにつけてマンツーマンでお互い楽しく勉強をされています。美術の先生集団から逆に個人レッスンを受けていて、和気あいあいであットホームな雰囲気に包まれています。絶対やめないでと生徒の皆さんから背中を押されて講師陣の充実をはかったり、登り窯周辺を整備したりして、陶芸教室を続けています。特に今年は10期という節目に当たりますので、記念イベントを考えようと作陶の合間をみてアイデアを出し合っています。

佐賀の陶芸家6人展

佐賀の陶芸家6人展が、9月30日(火)から10月5日(日)まで、佐賀玉屋本館6階催事場で開かれます。同じやきものづくりに従事する者のひとりとして、何故か興奮しています。それは、文化勲章受章者の故青木龍山先生を筆頭に芸術院会員、人間国宝が一堂に勢揃いしての饗宴だからです。日本の至宝として佐賀のやきものが現代に引き継がれ、そして次代へつなぐ大きな役割を担う展覧会のような期待が持てます。今有田は、日本の混沌とした時代の中でやきものが生活から見放され、放り出されようとしています。世の中のグローバル化・デジタル化という超ハイテク・超スピード化の中で、日本の和の文化の粹であるやきものが埋没してしまいました。当事者である私達の責任は大なるものがあります。文明の恩恵を限りなく受けても、人間の心や情緒は不変です。必ず対極にある文化を忘れる事はできません。めまぐるしい世の中だから、ホッと一息つく瞬間や時空間を大切にしたいものです。器との語らい—それはしん窯匠集団の永遠のテーマです。芸術の秋にふさわしい超豪華な6人展(故青木龍山・中里逢庵・井上萬二・酒井田柿右衛門・中島宏・今泉今右衛門)を目前にして、興奮する毎日です。

秋のミニ市

蝉の声から虫の音の大合唱に変わる頃、秋のミニ市の準備でそわそわとなります。

毎年11月3日の文化の日を記念して、やきもん文化を有田の小さな窯から大きく発信しようと毎年おもてなしの心を中心にイベントを積み重ねてきました。今年の春の陶器市は、おかあさま世代から娘さん世代へ代替わりが進んでいるなあと実感しました。そういえば、春は1980（昭和55）年から29回。秋は1983（昭和58）年から26回目を迎えるロングイベントに成長しました。今までにお迎えし出会ったお客様は、のべ20数万人になるでしょう。とてもお顔とお名前を一致させる事はできません。ましてや3世代にわたってお付き合いをしていただいているお客様も多く、私達は何とすばらしい人生にめぐりあって生きさせていただいているのだろうかとかやきものをつくる仕事を誇りに思っています。また今年の秋はどのような出会いがあるのだろうかと思うだけでワクワクドキドキするものです。しん窯匠集団こぞって新作に挑んで心からおもてなしができますように、日々修練を続けています。

限定商品

- ・えと絵皿 2、500円(税込皿立付)
(約200W×約125W×約25H)
- ・絵変り楕円小鉢揃 7、000円(税込)
(約133W×約90W×約45H)



しん窯

秋のミニ市
2008年11月1日(土)～3日(月・祝)

山装う頃となりました。春は蔵ざらえ。秋はおもてなしをコンセプトにやきもの感謝祭を開かせて戴きます。お誘い合せの上、ゆっくりとお出かけ下さい。

※秋のミニ市限定商品は、10月22日（水）よりご予約承ります。

読書の秋

東京青山に、うつわのみせ「大文字」という繁盛店があります。その店主内木孝一様は、同業者であり同門会というよしみもあって、ちょっと先輩ですが、公私共に長い付き合いの中でたくさんの薫陶を受けています。無類の勉強家であり、俳句を詠まれ、グルメで、話題と情報量は業界屈指と言っても過言ではないでしょう。そんな文化人の内木先輩が、このたび著書を出されました。『内木孝一の一生使える器選び』です。Q&A方式で対話しているような感覚で、あっという間に読破してしまいます。読み終わった後、やきもの通になり豊かな気分を味わわせてもらうから不思議です。やきもの離れが急速に進んでいる中、「大文字」店主内木さんのような業界人がこぞってお客様をつなぎとめなくてはなりません。なすすべもなく世の中の潮流だと傍観するするだけでなく、私達でできる事から具体的に行動する時だと思いました。百参号の「青花瓦版」もしん窯HP店長日記もその一環です。よろしくお願ひいたします。

また、同郷のよしみで東京や有田で頻繁にお会いしていた友人が、世界的視野で今日から私達が行動しなければいけない示唆に富んだ提言書を発刊されました。自慢の友人ですので、何はともあれプロフィールをご紹介いたします。

田中秀範 ソーシャル・プロデューサー

1950年、佐賀県西有田町生まれ。

1973年、東京理科大学卒業、電通入社。2008年6月末に退社。

(財)マルチメディアソフト振興協会企画委員、杉並区アニメーション振興

戦略会議委員、(財)地球産業文化研究所ツーリズム研究会委員、NPO法人富士山を世界遺産にする国民会議事務局長などを歴任。

「ゲームオーバー宣言」～アメリカ式グローバリズムの終焉とウェブ社会の未来～
ぜひこの秋読んでみて下さい。

職人さんのひとりごと

～第17回・佐々木智子さん～

縁あって、有田に嫁ぎ、青花と出会って早、29年になりました。

仕事は、絵描座で描きをしたり濃みをしたりしています。たくさんある絵柄の中の、江戸紋・花濃・花唐草・花つなぎ・たこ唐草・長崎紋の波、それらの描きを担当させていただいています。江戸紋という絵柄は線を大切にカチッと、花柄はやさしくおおらかにフワッと、たこ唐草は点の数を数えながら(?)、青花の顔の長崎紋の波はリズムに乗って、とそれぞれに工夫してやっています。

これからも皆さんに喜んでいただけるよう、かわいがっていただけるよう、藍を愛してやまない青花スタッフでありたいと思っています。

